

清元 雪月花

作詞 吉井勇・作曲 清元栄寿郎・作舞 西川鯉三郎

春信描く雪に舞う美女、歌麿描く月を眺める美女、春章描く舞台に舞う
美男の三枚続きの錦絵を舞踊化したものです。

白雪の積もる思いの深ければ 今もありあり目に残る 春信好み築地河
岸 これや名におう恋の淵 船宿の灯もほのぼのと ねやの障子にうつ
れるは そっと寄り添う影法師 離れまいぞへ離れじと

誓う言葉も幾たびか 口説に更くる夜の雪

歌麿の昔思えば心さえ 高島おひさの乱れ髪 その濡れ髪 of 濡れ衣

仇し浮名が立つともよしや その仮名文字の薄物を すきてなまめく玉
の肌 思う折から両国の橋のたもと of 空遠く 月の出汐の薄灯

いっか舞台も二のかわり 三のかわりの江戸ざかり 三枚続きの錦絵 of
中にすぐれし春章の 筆のすさびの役者絵や 名も吉原の花の雨 濡れ
て逢う夜を待ちかねて 堤八丁衣紋坂 この紫の鉢巻きは

深い情けの揚巻が 離れぬ二人の仲の町 鐘は上野か浅草の しんぞ真
実真心のこもった恋じゃないかいな